

後輩たちへのエール！ その29

2020年5月19日

好奇心が見せてくれる世界

◇今回は、吉田智美さん（メイクアップアーティスト）によるエールです！

関高校の皆様へ

こんにちは。

岐阜県では緊急事態宣言が解除されましたが、多くの方の生活スタイルが激変し、今までと何か違うことを考えて行動していかないといけないと強く思う日々を過ごしています。

これまでの「非常識」が、これからの「常識」になるのではないのでしょうか。

私は関市で mts make-up studio というヘアメイク、アンチエイジング全般のスタジオを主宰しています。今年40歳になりました。

ここまで来るまでに、芸大を卒業し、高校の美術講師を経験、そして単身NYへメイクアップをするために留学、東京でフリーランスのヘアメイクアップアーティストとして活動し、36歳の時に地元に戻り新しいスタイルでのメイクの仕事を起業しました。

40年分の人生のネタはたくさんありますが、今回は、高校から大学へ入るまでをピックアップして皆さんに面白おかしく読んでいただける投稿をさせていただけたらと思います。

私の高校時代は、決して勉強に一生懸命な学生ではありませんでした。

小学校からバスケットクラブに所属しており、高校でも当然のようにバスケット部に入り、日々部活に通うような学生生活でした。

勉強が嫌いだったかという、当時は「嫌い」「苦手」と思っていたのですが、今思うと、そこに目標がなかったから一生懸命取り組むことができなただけだと思います。

ただ、バスケットの方は仲間と一緒に絶対達成したい目標を持ち、それに向けて日々、たぶん今思えば、勉強するよりよっぽどつらい（！？）練習を頑張っていました。

当時、進学校である関高で部活に力を入れまくっている気合の入った部活は、私たち女子バ



スケが頭ひとつもふたつもとび抜けていた異色の存在だったと思います。けれど、勉強が苦手だった私もこの部活があったから学校へ行く意味があったし、部活以外の友達との時間（授業以外の時間）も楽しかったです。

3年生の夏、みんなでその達成ができた時の達成感は今でも自分の自信になっています。

思い出せは、バスケの思い出ばかりの3年間でしたが、そんな中でも、卒業後の進路を決めていかなければいけないという流れが私にも押し寄せてきたのは2年生の最初の模試でした。志望校を書かなければいけないのですが、それまで日本にこんなにいっぱい大学があると知らなくて、とりあえず知っている大学名を書いていた。当然D判定！！（笑）先生に呼び出され、真剣にどういう道に進むのか考えなさいと言われ、次の模試では本気で目指していないのなら今まで書いていた、いわゆる有名校以外を書きなさいということで、悩んだ挙句たくさんある大学名から、“〇〇芸術大学”という名前を見つけたのです！「ふむふむ、なんかかっこよさそう…」「わからんけど、普通科目ではほかの生徒と比べたら勝負にならないで、これは別の戦い方をするのもいいかも！！」と思ったわけです。

ちょっとおバカでしょ！？（笑）

当然、また呼び出しです。

先生「本気か？」

私「本気です。」

先生「いつから絵とかに目覚めとったん??」

私「これからです。」

先生「…」

そんなやり取りがあり、本当にその道に行きたいなら美術の先生に相談に行けと言われ、その後、家族とも話し合い（まあ、ここにも長いストーリーがありますが割愛）、紹介してもらったアトリエ（絵の塾）に通うことになりました。

ちなみに、私、全然美術得意ではありませんでしたし、そのアトリエで最初に書いたデッサンやデザイン画を見ると天才的に下手で今でも笑えます。

「人は何者にでもなれる！」

大切なことは「目標」、「目的地」があることです。

目的地を決めなければ出発することができません。出発してもいつまで経ってもたどり着く場所がないままです。

目的地が決まれば、そこまで行くのに何をしたらいいのかが初めてわかります。

だから、やる事が明確になり、行動できる。

当たり前のようですが、こう考えて何事にも取り組むことの大切さを私は大人になってか

ら教えてもらいました。

今の私がこの時の私に声をかけるなら、

「惜しい！！惜しいぞ！智美！！」

です。なぜなら、私はゴールを大学入学にしてしまったため、また大学に入ったら次の目的地を探すまでに遠回りしてしまったことです。

今だからこのように振り返ることができるだけで、当時は、目的地が定まったことで、勉強の必要性も感じ、必要な勉強はするようになりました。(それ以外は相変わらずでしたが…)部活でどんなに疲れても、そのあとにアトリエに通い、描けない自分との戦いも目標があったから頑張れました。

そしてとても大事なことですが、自分たちも疲れている中、遅い時間に送り迎えをしてくれた家族に、その時は当たり前に思っていました、どんなに大変なことだったかと思うと感謝しかありません。

それは、「かっこいいかも…」から始まった、私の“目指せ！芸大計画”が、私が一生懸命取り組み始めたことで真実となり、家族にも本気度が伝わったことかもしれませんし、親だから子供がやりたことをできる限りやらせてあげたいという気持ちからかもしれませんが、どうであっても、感謝しかありません。

何か頑張っていると絶対に協力者が現れる。自分も同じくもっと人のために力になれる人間になりたいと思っています。

私のここまでの人生は、好奇心が繋いでくれた人生だと思っています。

地元から出ることなど考えもしてなかった美術が苦手だった私が大阪の芸術大学に行き、英語が赤点だった私がNYに単身で留学し、24歳には結婚して子供がいてと勝手に思い込んでいた私が、40歳で独身のまま(笑)小さいながらも起業するなんて、高校時代の私が今を見たら、

「なかなかおもしろいことになってるやん！！」

と言うでしょうね。

そんな高校生の私に、

「あの時、よくわからんなりに興味を持ったことがすべてのはじまりやお！」

と、伝えます。

学生の皆さん、

皆さんはどんな自分になりたいですか？

目の前の勉強ももちろん大事ですが、その先のゴール、もしくは経由地は決まっていますか？

どこの大学に入るかではなく、何がしたいかを少し考えるきっかけになったらと思います。

やると決めれば、人はどんなことでもできます！

皆さんの将来を楽しみにしています。

mts make-up studio

吉田 智美